

# 令和5年度 第2回浜松市医療的ケア児等支援協議会

日時：令和6年3月15日（金）

午後2時から

会場：浜松市役所北館101・102会議室

ZOOMID：822 2120 4714

パスコード：hama0315

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 議題

(1) 医療的ケア児等支援コーディネーター活動実績報告 資料1

(2) 医療的ケア児等災害ワーキング報告 資料2

(3) 令和5年度医療的ケア児等支援者養成研修報告 資料3

(4) 令和5年度実施医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会報告 資料4

(5) その他

・医療的ケア児等相談支援センターについて

### 3. 閉会

## 浜松市医療的ケア児等支援協議会 委員名簿

### 外部委員

(敬称略)

所 属		氏 名	備 考
	浜松医科大学	福田 冬季子	
	聖隷クリストファー大学	宮谷 恵	
会長	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	遠藤 雄策	
	聖隷福祉事業団 聖隷こども家庭総合支援センター	大木 茂	
	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	尾田 優美子	欠席
	介護医療院有玉病院	岡崎 貴宏	Zoom 参加
	県立西部特別支援学校	飯塚 昌夫	
	総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター	沖村 宏美	
	浜松地区肢体不自由児親の会	里 あゆ子	
	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	清水 恵美	
	指定障害児相談支援事業所くすのき	古橋 清史	

### 庁内委員

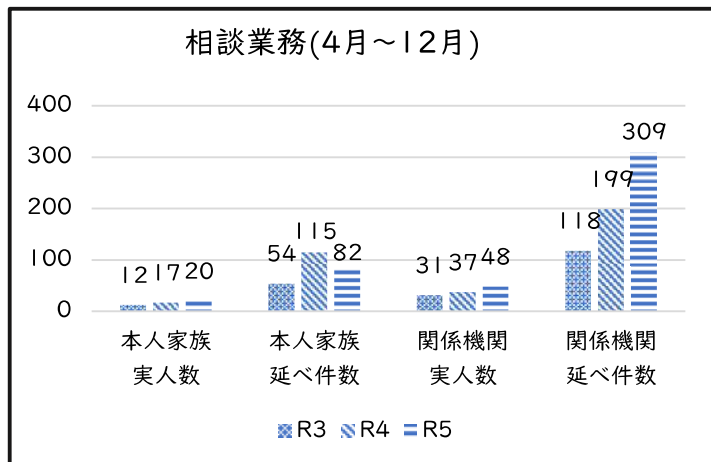
所 属		氏 名	備 考
	浜松市中障がい者相談支援センター	藤川 晴海	
副会長	浜松市障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	
	学校教育部 教育支援課	南瀬 悦司	
	健康福祉部 健康増進課	渥美 雅人 (代理：小笠原雅美)	
	こども家庭部 幼児教育・保育課	大橋 泰仁	
	こども家庭部 子育て支援課	小山 東男 (代理：佐藤 智香)	
	健康福祉部 健康医療課	西崎 公康	

### 事務局

課 名	氏 名	備 考
浜松市社会福祉事業団	阿部 祥美	
	尾関 ゆかり	
	宮司 登志江	
健康福祉部 障害保健福祉課	久保田 尚宏	
	金原 正剛	
	柴田 多美子	
	中谷 麻由実	

# 浜松市医療的ケア児者等コーディネーター実績報告(R5.4月～12月)

## I 相談実績



### (相談件数)

本人・家族、関係機関からの相談の実人数は共に、R3年度より増加傾向にある。一方、本人・家族の延べ相談件数はR4年度よりR5年度は減少している。

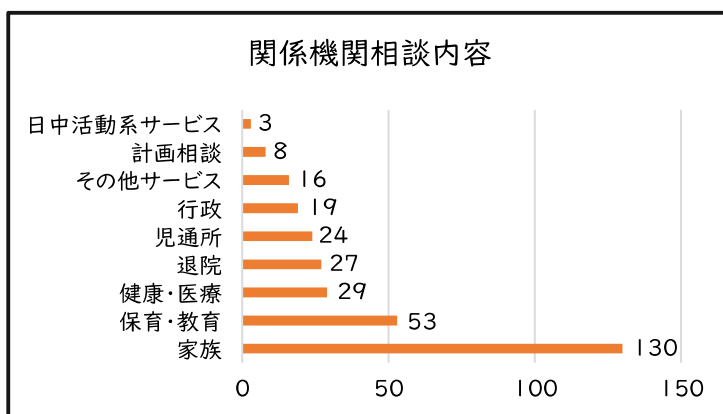
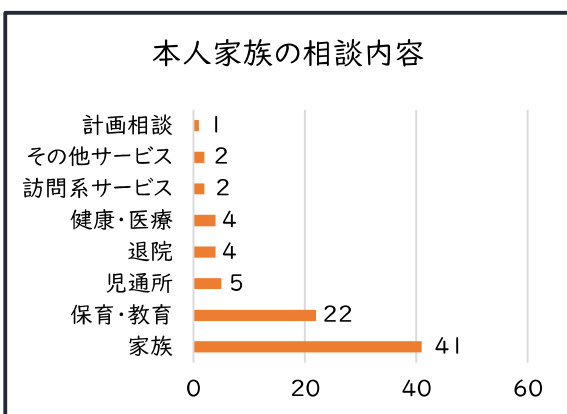
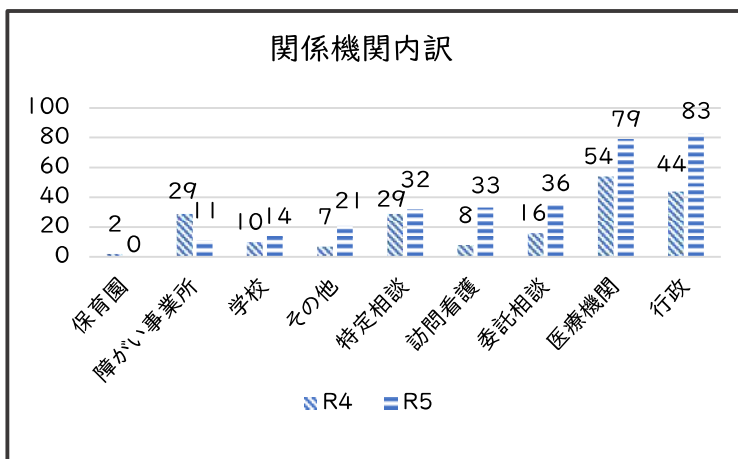
R3～R4年度と継続してきた相談の中で、コーディネーターから地域の相談支援事業所や学校、事業へつなげたケースが増えてきた結果だと考えられる。

関係機関の延べ相談件数の増加は、地区担当の保健師からの相談が増えていることによると考えられる。

### (関係機関内訳)

全体的に相談件数は増えており、特に行政からの相談件数は昨年度比でほぼ倍増している。

内訳では、健康づくり課からの相談が増加していた。相談内容は、職場復帰に向けての保育園入園の相談が最も多く、ついで退院時の家族支援となっている。地区担当の保健師と繋がり同行訪問することでお互いの役割分担が明確になり、情報共有をはじめ連携がスムーズになっている。また、保護者にとっても相談先が明確になっていると考える。



### (相談内容)

本人・家族からの相談、関係機関からの相談ともに「家族支援」「保育・教育」の相談内容が上位を占める。「家族支援」の相談件数が最も多いのは、医ケア児者の在宅生活の継続には複合的な課題が相談があることが要因と考えられる。「保育・教育」の相談の多くが入園に関する相談である。関係機関からの相談割合(17.1%)が本人・家族からの相談割合(26.8%)に比べて少ない。今後、保育分野の関係機関との連携を課題として取り組みたい。

## 2 その他の業務

医療的ケア児者等名簿登録の管理	新規11件、変更1件
医療的ケア児等支援者養成研修会の開催	全5回実施 (座学、医ケア体験) 10月26日 43名参加 (施設見学ツアー) 11月7日 12名参加 11月15日 5名参加 11月30日 3名参加 12月12日 5名参加
医療的ケア児等の家族との意見交換会の開催	1回実施 2月28日 13名参加
参加した会議	自立支援協議会企画会議、市全体会、災害ワーキング 教育委員会医ケア運営協議会 教育委員会医ケア実施校連絡会 校内安全委員会、共同支援会議 浜北天竜エリア課題解決部会
地域体制づくりに繋がる連携、相談	看護師向け研修、訪問看護ステーションとの意見交換 浜松市立看護学校講義実施 全国重症心身障害児(者)を守る会 静岡県医療的ケア児等コーディネーターのネットワークづくり 静岡県医療的ケア児等支援センター挨拶 愛知県医療的ケア児センター視察 航空隊ヘリ&救急車見学、駐機訓練見学 静岡市医療的ケア児等コーディネーターと情報交換

## 3 家族と看護で繋がろう～ライフステージからみえる家族の想いと支援～研修報告

参加者:44名、アンケート回収35名(79.5%)

研修満足度:良かった32人(91%)、まあまあ良かった3人(9%)

研修内容:各ライフステージにおける本人・家族の想いと支援

ライフステージによりそう各分野の看護、グループディスカッション

(研修の感想)

- ・事業所選びもマッチング。慎重なアセスメントとモニタリングが大切だと理解。
- ・各ライフステージの実際の現場や様子を知ることができて良かった。
- ・ライフステージ毎の悩み、縦と横の繋がりの必要性を常々感じていたため繋がりの必要性の再認識ができた
- ・継続して徐々に繋がる事例を増やし、共有してさらに広めていく良いスパイラルに繋がっていったら嬉しい
- ・時間が足りないと感じるほど皆さんのお話を直接聞くことができてよかった
- ・ZOOMでは感じられない想いやニュアンスが伝わり直に会えてよかった

#### 4 実績から考えるニーズと課題

	ニーズ・課題	今後の取り組み
名簿登録管理	<p>毎年、名簿登録数は減少している。名簿登録を、医療的ケア児等コーディネーターの介入の機会にしていきたいと考えている。</p> <p>医療的ケア児とご家族の実態把握を通して地域づくりにつなげていくことを目的に、全数把握に向けて取り組みたい。</p>	<p>今年度の災害ワーキングを通して、情報提供書兼災害時個別支援計画の見直しを実施した。まずは、医療機関や訪問看護ステーション、健康づくり課への周知を行い、出産後初めて退院するタイミングに医療的ケア児等の全数把握に取り組みたい。</p>
通園・通学	<p>「同年代の子どもたちの集団の中で一緒に過ごさせたい」「仕事に復帰したいが、預けられる場所が少なく、預かってもらえても短時間」「医ケアがあると通園、通学バスに乗せてもらえない」「特別支援学校では医ケアの待機期間があるので働けない」などの相談から、医ケア児の通園・通学に関して、本人・家族の選択ができる立場になっていない現実がある。</p>	<p>2021年に施行された医ケア児法に明記された「家族の離職の防止」のほか、医ケア児の育ちの視点から、日中活動の場の確保のためには看護師をはじめとした医ケア児等を支援する職員の確保のため、人材養成研修や学生への働きかけが必要と考える。また、医ケア児が地域で同年代の子どもたちと一緒に育つために、地域の園・学校の体制をより充実させる必要があると考える。体制整備のため、関係機関での定期的な情報共有や会議の開催を検討したい。</p>
医療従事者	<p>看護師研修は集合研修の開催となり、顔が見える関係になれたこと、グループワークを通してお互いの看護の環境や状況を生の声で聞いたことが横・縦のつながりの第一歩になった。ひとりの医ケア児・者に同時期に多機関で看護師やリハビリなど医療従事者が支援しているほか、ライフステージごとに次の機関へバトタッチされていくが、横と縦のつながりが希薄であり、医療従事者同士がつながりたいと希望している。</p>	<p>今後も看護師研修を継続するほか、他の職種同志のつながりを強化できるような研修の開催を検討したい。</p> <p>また、ひとりの医ケア児・者の支援に関するケース検討会を実施することで、多職種連携の強化につなげたい。</p>
災害	<p>今年度の意見を伺う会では、能登半島地震後であったことから、地震後に考えたことや自助共助についての不安の声を多く知ることができた。発災後の安否確認方法の確立や、SOSを発信できる仕組みなどのニーズが大きく聞かれた。</p> <p>日頃から防災訓練の実施、訓練後の対応の見直しを繰り返すことで体制整備を進めていくことが課題と考える。</p>	<p>実現可能な安否確認方法の確立につながるよう、安否システム運用訓練のほか、災害時の医ケアに必要な物資の確保や、発災時の自助共助を促進する取り組みを検討したい。</p>
人材確保	<p>医ケア児が関わる事業所として、人材不足は大きなテーマといえる。人員配置基準を満たせないため定員どおりの受け入れができない状況が続いているサービス等提供事業所が少なくない。</p>	<p>サービス等提供事業所の実態調査を行いたい。福祉・看護・リハビリ各分野の職業を知り、将来の職業選択につながるよう、看護学校をはじめ高校生や大学生を対象とした周知啓発活動に取り組みたい。</p>

令和 6 年 3 月 1 5 日 医療的ケア児等支援協議会

## 医療的ケア児等災害ワーキング

## 1. 目的

日常的に医療を必要とする人たちの災害時の支援について検討する

## 2. 開催期間

令和 5 年 6 月～令和 6 年 2 月

## 3. 構成員

大木 茂（聖隷こども家庭総合支援センター）、杉浦 弘（聖隷浜松病院）、  
 遠藤 雄策（はままつ友愛のさと診療所）、尾田 優美子（訪問看護ステーション連絡協議会）、  
 河合 希代美（訪問看護ステーション連絡協議会）、雨宮 寛（浜松市障がい者基幹支援センター）、  
 篠ヶ瀬 信行（聖隷おおぞら療育センター）、大柳豆 勇太（浜北・天竜障がい者相談支援センター）、  
 稲川 秀子（学校教育支援課）、山村千登勢（学校教育支援課）、  
 仲山 智士（消防局警防課）、小笠原 光峰（消防局警防課消防航空隊）、  
 室井 大（消防局警防課消防航空隊）

（事務局）

阿部 祥美（医療的ケア児等コーディネーター）、尾関 ゆかり（相談支援事業所シグナル）  
 柴田 多美子（障害保健福祉課）、中谷 麻由実（障害保健福祉課）

## 4. 活動内容

開催日	内容
第 1 回 令和 5 年 6 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防局警防課の参加経緯について</li> <li>災害時支援体制の再検討について</li> <li>自助の周知について</li> <li>情報提供書兼同意書、及び災害時個別支援計画について</li> </ul>
第 2 回 令和 5 年 9 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供書兼同意書、及び災害時個別支援計画様式について</li> <li>SOS 対応イメージ図について</li> <li>大規模災害停電時の電源確保について</li> <li>自助の周知について</li> </ul>
令和 5 年 9 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>安否確認システムにおける情報伝達訓練実施 9 時に一斉送信し、12 時 30 分の時点の 回答率 <u>51/91 56.0%</u></li> <li>被災による外傷のある医ケアの方についての支援を行う。 (周産期リエゾンへの繋ぎ)</li> </ul>
令和 5 年 10 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防航空機（はまかぜ）及び救急車の見学</li> </ul>
令和 5 年 10 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅で生活する医療的ケア児等の自宅へ訪問</li> <li>※その他、消防航空隊が訪問看護ステーションと同行訪問を実施。</li> </ul>
第 3 回 令和 5 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝人ヘルスケア（株）の取組みについて</li> <li>避難について</li> <li>情報提供書兼同意書、及び災害時個別支援計画様式について</li> </ul>
第 4 回 令和 6 年 2 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供書兼同意書、及び災害時個別支援計画様式について</li> <li>医療的ケア児等災害時自助フローチャートについて</li> <li>安否確認システムについて</li> </ul>

5. ワーキングで見えてきた課題と今後について

- ①課題：
  - ・公助での救助は限界があり、自助の周知が必要。
  - ・安否確認システムの運用・関係機関との情報共有の扱いについて検討が必要。
- ②今後について：来年度もワーキング継続。主に在宅避難について検討。
  - ワーキングメンバーで安否確認システムを用いた訓練を実施予定。

## 令和5年度 浜松市医療的ケア児等支援者養成研修 アンケート結果について



浜松市 障害保健福祉課

## 研修内容

Part1 医療的ケア児者を知り、浜松市の支援の取り組みを知ろう  
実際の医療的ケアの手技や物品に触れてみよう

日程	内容	講師
	医療的ケア児者への災害時支援の取組み	浜松市障害保健福祉課
10月26日	医療的ケア児を知ろう	浜松市医療的ケア児等コーディネーター
	実際の医療的ケアは？使う物品に触ってみよう 救急対応を知ろう 実技	聖隷浜松病院 小児看護専門看護師 高 真喜氏 聖隷こども家庭総合支援センター 医師 大木 茂氏



## 研修内容

Part2 医療的ケア児者や重症心身障害児、肢体不自由児が過ごす施設を見学しよう

日程	内容	講師
11月7日	児童発達支援事業所見学 生活介護施設見学	児童発達支援事業所 わくわく 生活介護 ぽかぽか
11月15日	放課後等デイサービス事業所見学	放課後等デイサービス くじらぐも 放課後等デイサービス すてっぷ
11月30日	児童発達支援事業所見学 放課後等デイサービス事業所見学	児童発達支援事業所 放課後等デイサービス こでまり・やまぼうし
12月10日	生活介護施設見学	生活介護 くじらぐも

## 参加人数と内訳

Part1 参加人数 43人

日程	相談 (委託相談、 計画相談)	サービス事 業所	教育 (養護教諭、 学校看護 師)	保育 (幼稚園、保 育園)	訪問 看護	健康 づくり課	社会 福祉課	その他	合計
10/26	7	6	6	17	1	3	1	2	43

## 参加人数と内訳

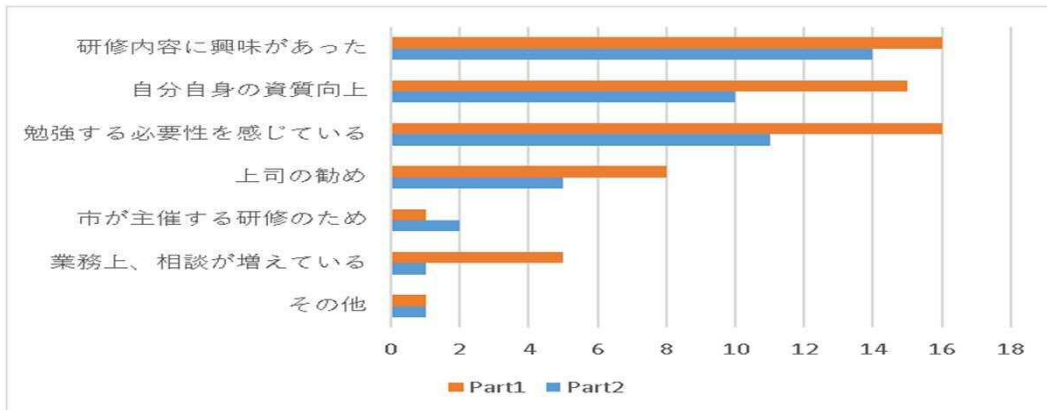
Part2 参加人数 25人

日程	相談 (委託相談、 計画相談)	サービス事 業所	教育 (養護教諭、 学校看護 師)	保育 (幼稚園、保 育園)	訪問 看護	健康 づくり課	社会 福祉課	その他	合計
11/7		5	6					1	12
11/15		2	1			1		1	5
11/30				3					3
12/12		3	1		1				5

## 受講アンケート結果

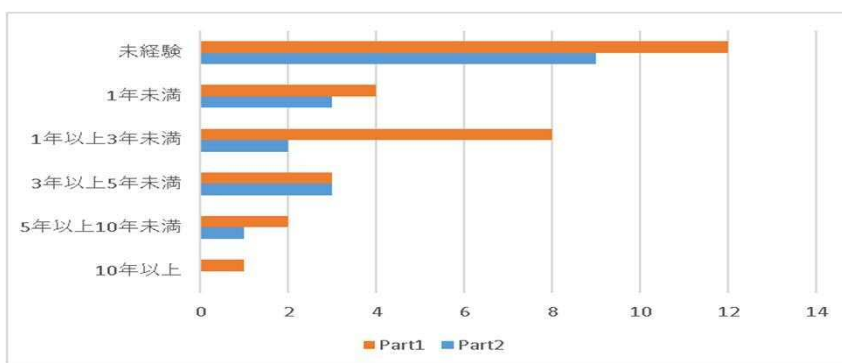
日程	受講者数	回収数	回答率
Part1 10月26日	43	30	69.8%
Part2 11月7日～ 12月12日	25	18	72.0%

## 受講理由(複数回答可)



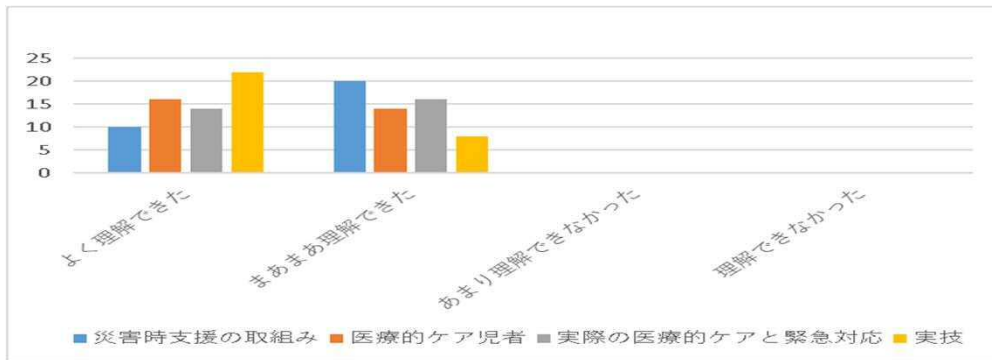
	研修内容に興味があった	自分自身の資質向上	勉強する必要性を感じている	上司の勧め	市が主催する研修のため	業務上、相談が増えている
Part1	16	15	16	8	1	5
Part2	14	10	11	5	2	1

## 経験年数



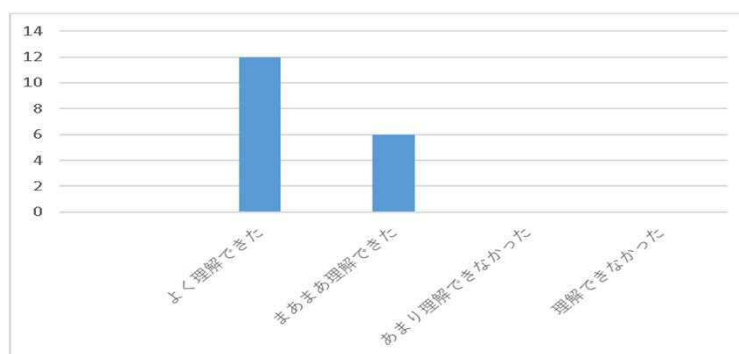
	未経験	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上
Part1	12	4	8	3	2	1
Part2	9	3	2	3	1	0

## 10月26日研修の理解度



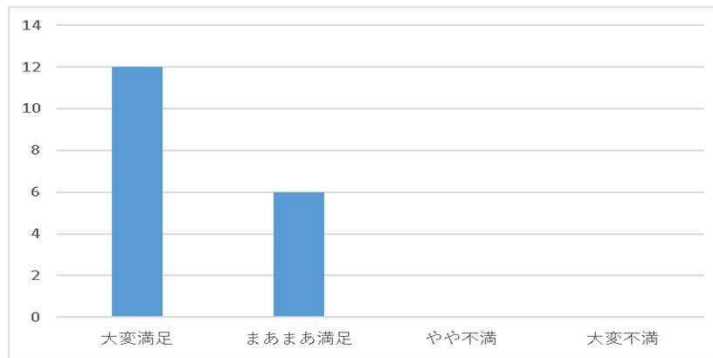
	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
災害時支援の取組み	10	20	0	0
医療的ケア児者	16	14	0	0
実際の医療的ケアと緊急対応	14	16	0	0

## Part2 施設見学の理解度



	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
	12	6	0	0

## Part2 施設見学の満足度



満足度	人数
大変満足	12
まあまあ満足	6
やや不満	0
大変不満	0

## 保育分野 意見・感想

- 医療的ケア児とそれを取りまく現状について具体的に知ることができ、また、実際にケアの方法を知り、触れることができ、大変学びの多い研修でした。疑問点についてもその場で質問ができ、詳しく回答していただけました。
- 色々な器具の紹介や医ケアの詳細説明はとてもわかりやすく保育者にも良き学びの場でした。今回も保育関係者の参加が多かったと感じました。保育者も医療的ケアの医療の部分学ぶ良い機会となりました。
- 実際に物品に触れて体験してみることができ、今まで関わったことのある子供のことについて、より理解を深めることができました。聞くだけでなく、体験でき良かったです。

## 教育分野 意見・感想

- 実際の物品を触って研修させていただき、子どもの気持ちをより想像することができました。実際のケアに活かしていきたいと思います
- 私の経験では、インシュリンの自己注射の子は4人、導尿の子1人に出会っています。今回、経管栄養や痰の吸引など、未知の分野の研修ができ、大変勉強になりました。災害時には、医ケアの子たちを、最優先して対応できるように、再度、学校でもシステムを確認しておきたいと思います。

## 看護・福祉分野 意見・感想

- 研修に参加して、浜松市がどのような取り組みをしているのか理解する事ができた。これからも積極的に活動し災害時に医療的ケア児や家族が困らないようにしてほしい。事業所として協力できることがあれば積極的に取り入れていきたい！
- 実際の物品に触れたことがとても良かったです。普段そのような機会がなく、相談者の話を聞いても具体的にイメージできなかったもので、とても参考になりました。

## Part2 意見・感想

- 医療ケア児の事を知ることができてよかったです。実際に見学に行くことができ、医療ケア児と発達支援の子と一緒に生活している姿やお話を聞くことができてよかったです。
- 限られた空間の中でいかに活用するか、一緒に過ごすこと、安全安楽に過ごすことなど詳しく聞けて、勉強になりました。
- 実際に医療的ケア児を受け入れている事業所を見学し、施設的环境や職員の体制、受け入れについての配慮点など、具体的に知ることができ、大変気付きや学びの多い研修でした。わからないでいることが、医療的ケア児を受け入れたり対応したりすることに対して感じる怖さに繋がることに気付かされ、医療的ケア児とその支援方法について知識を深めていくことの重要性を感じました。現在自園に医療的ケア児が在籍していませんが、今回の研修を通して得た知識を他の職員にも伝え、医療的ケア児への理解を深めていけるようにしたいと感じました。貴重な機会をありがとうございました。

## 研修に関する意見や感想

- 医療的ケアを受ける子どもが自分の状態を受容し、自立していくた難しさを感じています。事例や、支援方法を学びたいです。
- これまでに医療的ケア児の支援にあたったことがなくほとんど知識もなかったため、まず病名や用語など本当に基本的なことから学ばないといけないなと感じました。
- 保育園で受け入れをしていくにあたっては現在の環境では難しさがあるため、どのように環境を整えていくのか、職員体制も含め考えていかなければならないと思いました。あわせて、定期的に基本的な知識を得られる研修が受けられると良いと思いました。
- 医療的ケア児及び重心障害児への対応をするにあたり、課を跨いで連携する必要性を感じます。医療と療育・保育・教育・就労とのつながりをどのように構築していくか考えることが大切だと思います。
- どんな社会資源があるのかを知らないなので、教えて欲しい。
- 医療的ケアについて看護師だけでなく、介護者やリハの方にも理解していただければと思った。医療的ケアがあるからという理由だけで、色々な事を制限する必要はなく、他の児童と同様な対応をしていきたいと思った。

# 今後の研修について

## 医療的ケア児について

医療的ケア児の心のケアについて

医療的ケア児のケアについての実技研修

## その他

同じ内容で研修をしてもらいたい

物品に触れる研修

社会資源について

## 医ケア児の就園や就学、園や学校での対応について

保護者とのコミュニケーション、  
職員間の情報共有方法

周りの医ケア児ではない子どもの  
関わり方・声掛けについて

医療職ではない支援者として  
できること、気かけなくては  
いけないこと

緊急時の対応

## 機関連携

機関連携の方法(つながりをどう構築していくか)



## 令和 5 年度医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会

作成：浜松市医療的ケア児等コーディネーター

開催日時	令和 6 年 2 月 2 8 日(水) 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 3 0 分
開催場所	浜松市役所 会議室 (Zoom を使った Web とハイブリッド開催)
出席者	会場参加：ご本人 1 名、保護者 9 名、ZOOM 参加 3 名 事務局 障害保健福祉課 5 名、浜松市医療的ケア児等コーディネーター 2 名 聖隷こども家庭センター 1 名、基幹相談支援センター 1 名、障害者更生相談所 1 名
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害保健福祉課長より挨拶</li> <li>② 参加者自己紹介</li> <li>③ 事前質問への回答</li> <li>④ 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震の状況</li> <li>・「今現在行っている災害時の備えおよび、能登半島地震後に考えたこと、課題と感じたことについて」</li> </ul> </li> <li>⑤ その他</li> </ul>
内容	<p>1 障害保健福祉課長挨拶</p> <p>2 参加者自己紹介</p> <p>3 事前質問への回答</p> <p>○補装具の申請に時間がかかる、不便で困る ⇒(事務局) こども用の福祉バギーや車いすは相談から納品まで長い期間がかかるが、こどもは日々成長もして体即したものを早めにいただきたいと聞いている。取り組みとして、申請から決定通知まで 3 か月以内に努めている。2～3 か月以上かかる場合は市から対象者へ連絡をいれる対応をしている。困りごと等も聞かせていただき対応をしている。</p> <p>○区の再編によって 3 区になった。区役所の担当者によって申請がスムーズにいかないこともある。問題あれば本庁に相談でもよいか？ ⇒(事務局) 今まで以上の連携体制を検討している。全市で意見交換をしながら事務に温度差や対応に違いがないように対応していく。何かあれば本庁へ相談可能。</p> <p>○医療的ケア児就学支援事業は、こどものことをよく知っている訪問看護さんが対応してくれて嬉しいが、なかなか利用できる環境が整っていないのが困っている ⇒(事務局) 県の事業のため浜松市から県への要望を引き続き出していく。</p> <p>○20 歳過ぎてから小児科受診が継続している。成人への医療受診の移行に不安がある。 ⇒(事務局) 医療のところは障害保健福祉課としてどこに確認して対応いけばよい</p>

か？

⇒(事務局)移行期医療として話題に上がっている課題。全国統一の対応はない。糖尿病など単一の病気については移行できるが、重心や複合型の疾患の方への対応はまだない現状。聖隷浜松病院は総合心療内科が全部みている。クリニックの先生によっては診てくれることも。浜松医大では成人までずっと小児科がみているよう。

⇒(事務局)難しさはありそうだが少しずつ進めていければ。

○ショートステイ先がない、医ケアあると限られてしまう

⇒(事務局)既存の事業所に声掛けは実施しているが、医ケアも難しさがあるよう、今後も声掛けは継続していく

○医ケア児者への母子家庭への支援の拡充を。お子さんが成人になると手当てが減る、母の就職も厳しい状況

〈ご意見〉

重度の子だと生活介護に行くにしても物品が多く、移動も大変。家に看護師さんが訪問に来てくれて見守ってくれる仕組みがあるとよい。働いている間にみもらえる仕組みを。

成人になると生活介護の通所への送迎が大変。放課後デイが利用できる時間くらい成人も日中一時が利用できれば。18 時くらいまでみもらえるところがあれば安心。

⇒(事務局)大人になると通所時間が短いと聞いている。日中一時も医ケア児利用できる場所が少ない。看護師の配置も難しいと事業所から聞いている。聞き取りは実施していく。

〈ご意見〉

ヘルパーの報酬の引き下げを TV で聞いた。浜松は？

⇒(事務局)高齢者分野は下がるが障害分野はあがる。人材確保はヘルパー含めて課題。育成研修の実施もしているが人数が増えている現状ではない。今後も対応は続けていきたい。

〈ご意見〉

福祉の立場で働く観点でいうと、女性の働き方改革を進めていると思うが、障害を持つ子の母親父親へのアクションをしていくのも一つの選択肢だと考える。

⇒(事務局)働く環境にも配慮をしてもらえるような働きかけを続けていく。

#### 4 意見交換会

能登の状況共有

日本小児科学会の災害対策委員の会内で情報を集めていた。急性期は DMAT を除けば外への援助申請はなかった。石川県：重心 5 1 人、人工呼吸器 3 8 人、能登半島の医ケア児 23 名(人工呼吸器 11 名)。医ケアあるから困ったことはないようだった。連絡を個別にとって、状況や酸素状況なども確認できた。

浜松市で今後どのように連絡をとっていけるか？体制整備を進めていきたい。

〈ご意見〉能登地震で考えたこと

自分と子供の命を守るのは自分だけ。もう一台蓄電池の購入を考えている。マンション 9 階。マンション内の災害訓練は参加しているがもっとできることあるなら知りたい。発電機、蓄電池、人工呼吸器バッテリー3本準備はしている。もっと欲しいのか？

⇒(事務局)搬送は数日で終わっている。南海トラフは全体的な被害は避けられないと考えられる。自助は必要。電気は比較的 3-4 日で復活といわれている。ほかに推奨は電気自動車。

〈ご意見〉

2018 年 9 月に台風で大停電があった。そこをイメージしながら考えていければ。皆さんがどのように過ごされたのか知りたい。

⇒(事務局)この年に初めて意見を伺う会を開催させてもらった

〈具体的ご意見〉

・呼吸器があって中田島の団地に住んでいた。医大に相談して医大に行くのも信号も消えていて色々倒れていて怖かった。

・停電免れて過ごせた。

・入所中でこどもはよかった。自宅は東区で 2-3 日停電続いた。こどもの衣類の洗濯ができず、3 日目は手洗いで洗濯した。

・入院中で総合病院は電気もご飯もできてよかったが、家でみるのはとても無理だと感じた。体温調整もできない。病院で受け入れてもらえるのか？みてもらえるところの確保が必要だと感じている。往診医と相談はしているが心配。

⇒(事務局)台風などの予想できる場合は、受け入れも可能。地震などが起こった際は、災害拠点病院になり、病院前トリアージが行われて入れる人が限られてしまう。

⇒(事務局)大きな災害時は大きな病院の受け入れは難しいと聞いている。訪問看護からも最低 3 日分の必要な物品の確保も必要だと聞いている。

〈ご意見〉

能登地震 TV でみた。高齢者は自宅で過ごされていた。避難所で配られた食料品は並んでる人しかもらえないと聞いた。浜松市はどうか？こどもの分はあっても、家族の分はなくなる可能性も考えられる。そうすると自助も厳しい。

⇒(事務局)避難所開設は市役所職員や地区の方が開設となる。自宅避難の方へ配布には行けないが、必要な方へ届くような仕組みはできている。地域の避難所や自治体の方にも知ってもらうなど顔が繋がっていくのが必要。災害時も同じ対応ができるよう危機管理課にも共有していく。

〈ご意見〉

避難訓練参加している。自治会長など変わるとご挨拶にはいくが、情報は引き継がれていない。地区によって対応の違いがある。隣の地区は引き継がれているな

ど防災意識も様々。地域が違って同じように話を進めてほしい。

⇒(事務局)危機管理課から自治会や民生委員に依頼を実施している。要避難者名簿の作成も含めて危機管理課と共有していく。

⇒(事務局)避難できなかった方への物資を届けることは課題。食品や薬品も含めて仕組みを整えていきたい。

#### 〈ご意見〉

能登地震はお正月で家族と過ごされていることが多かった。東日本は昼間で家族がバラバラだったケースも多い。夜間や休みは電気の確保が難しい。災害後の立ち上がりが大切。こちらからの発信できる仕組みがあると安心。自分から発信する仕組みがないのが不安、助けてが言えない。特に休みや夜間などは難しい。

⇒(事務局)何かしら家族から市へ発信できる仕組みを考えていきたい。

⇒(事務局)初動内容は市がどこまでできるのかも含めて難しさはあるため、何ができるか、どうできるか考えていきたい。

#### 〈ご意見〉

災害発生後の移動手段が困る。地震後車いすで移動は充電や距離を考えると移動の手段の確保もほしい。どこにお願いできるのか知りたい。

⇒(事務局)消防とも連携を進めている。へり移動も含めて検討中。

⇒(事務局)移動手段についてはこういう時にこうしますという公式が成り立たない。政府は基本在宅非難も障害の方は推奨されている。1981年以前の耐震ない建物や液状化の土地、津波のところも難しい。移動しないで在宅非難をメインに考えていくしかない状況。

⇒(事務局)避難所や避難先(自宅)へどう物資を届けるかも課題。

#### 〈ご意見〉

大きな地震があった際に、自宅避難できない方が施設に避難にいけるのか？施設入所中だが施設職員も被災されている状況。入所家族が自分の必要なものをもって施設ボランティアとして受け入れてもらえるのか？

⇒(事務局)市の対応ではなく、事業所ごとの考えとなる。BCPの計画は各事業所対応。

#### 〈ご意見〉

基本在宅非難で考え発電機は準備している。蓄電池とソーラーパネルを追加で購入した。準備も高額なため費用の補助はいかがか？人工呼吸器以外の方も補助はでるか？

⇒(事務局)日常生活用具は呼吸以外の電源が必要な方も対象に広げた。一生涯に1回から数年更新に変えたところ。

・夜間呼吸器とカフアシスト利用している。呼吸器疾患または難病対象のみだと診断書が書けないと対象になれない。

・ソーラーパネル、電気自動車リーフ、変電機も購入した。能登地震でも水道が

でない聞いた。水道がどこまで止まるかで、在宅非難がいつまでできるのか？につながる。清潔に過ごさなくてはならない子が多い。

⇒(事務局)水道については情報確認します。

⇒(事務局)水道は一番最後。長いと3か月かかる。一番最初にどう対応できるか？長期になった場合一時的な転居も含めて検討が必要。とりあえずは1週間をどう過ごせるのかが重要。

・避難所に水をもらいにいく？避難所にも発電機などの導入や学校なども含めて水の確保の検討を希望したい。また医ケア児のお互いの家の状況を共有して近くなら一緒に過ごすのも一つの方法かもしれない。

⇒(事務局)学校建て替えに伴い発電機の導入している。水の確保は1週間過ぎた後の過ごせる場所をどうつないでいくかも検討。

#### 〈ご意見〉

能登地震も含めて、防災ヘリなどは親は付き添いできないと聞いた。こどもの情報をどう託していくか、何かあれば教えてほしい。

⇒(事務局)石川県はすこやか手帳を作成したと聞いた。紙ベースのものの準備を。

#### 〈ご意見〉

天竜区の山の中、お風呂が打ち切られると聞いた。訪問看護も時間指定、お風呂も時間指定でしか利用できない。中央区との差が大きい。そういうところにもサービスが届くようにしてほしい。寝たきりの子にとってお風呂がすごく大切。お風呂に入れてあげてほしいと切実に願っている。そういうところに住んでいる方への補助も考えてほしい。

⇒(事務局)切り捨てはしない。民間の事業者をお願いしているところ。施設の入浴支援も検討している。市としてもできる限り、事業所に頭を下げながらお願いに回っているところ。天竜区では難しいことも含めて今後も検討を続けていく。何かよい案があればぜひ教えてほしい。そういうところも含めて色々な手段を検討しています。

### 5 その他

#### 〈事務局より〉

医ケア児や重症心身障害児者を対象とした、医療的ケア児等相談支援センターが R6.4.1 に開設します。福祉交流支援センターの3階に開所予定。関係機関に繋いでいく体制づくりや繋げていける先を増やしていけるように考えている。

備考